

東京都立大学附属高等学校



1. 本校の沿革・概要

昭和4年1月、府立高等学校（高等科3年，尋常科4年）の設置が認可され，同年4月，麹町区永田町の東京府立第一中学校（現在の都立日比谷高校）内にて開校する。昭和7年，東京府荏原郡碑衾町（現在地）に移転する。昭和25年，東京都告示により東京都立大学「附置学校」となり，東京都立大学附属高等学校と改称する。昭和25年11月，木造校舍新築に伴い，大学棟から移転し，昭和49年鉄筋校舎落成，現在に至る。

本校の教育目標は，人間性をたつとび，「自由と自治」を重んずる校風のうちに知性と体位を向上させ，品位を陶冶することを目標としている。また，本校のこれまでの歴史と伝統を大切にしつつ，基礎・基本の学習の徹底を図るとともに，生徒自らが学び，自ら考える力を養い，個性の伸長と自主性・自律性の確立を目指している。また，変化の激しい現代社会にあって，未来を見据え，心豊かでたくましく生きる生徒を育てるために，本校では，大学との連携や実習等を重視している。これらの活動を通して，授業の充実を図り，生徒の学習意欲を高める指導を行っている。

(1) 都立大学の協力による連続授業，巡検・校外実習の実施

－学校設定科目「大学探訪」（高大連携・開かれた学校づくり）単位認定を目指して－

本校では伝統である「真理の追究」，「自由と自治」を基調とした教育実践の1つとして，また，附属高校としての高大連携を生かすために，大学教員による連続授業や大学院生チューターによる実習を行っている。この取り組みを通し，「興味・関心に沿った授業テーマを，現地で学ぶ，専門の研究者から直接学ぶ」など，生徒の学習意欲の向上や豊かな教養を身に付けることを目的としている。過去7年間の取り組みは，校内外でも高く評価され本校の特色の1つとして欠くことのできない実践となっている。これらの行事には，従来から保護者の参加も自由である。また，平成12年度からは，他校生にも連続授業を公開し，多様な受講生を受け入れ好評を得ている。平成13年度は，この行事をより充実発展させるために，都立大学の夏季オープンクラス，都立大学体験学習を含めて学校設定科目「大学探訪」とし，単位認定を行っている。

平成14年度“特色ある学校づくり”年間計画

2. 本校の特色

本校では，すべての教職員が創造性と自発性を発揮して教育活動に取り組む中で，生徒1人ひとりの資質向上を図るとともに，家庭や地域社会，都立大学，その他の教育機関等との連携を深め，特色ある学校づくりなどの教育活動を円滑に推進している。

	実施予定月	内容・実施場所・対象生徒など
1学期	6月	理科巡検（葉山・城ヶ島・都内） 2学年生徒全員対象
	7月	大学教員による連続授業（校内） 6講座 全学年生徒対象（希望者）・第2学区の都立高校生にも参加を呼びかける
夏季休業	7～8月	都立大学夏季オープンクラス：物理、化学、生物、地学、地理（南大沢） 全学年生徒対象（希望者） 夏季休業中に都立大学で行われる高校生向けの講座を受講
2学期	9～10月	地理巡検（箱根・沼津） 1学年生徒全員対象、1学級単位で本校の沼津寮に宿泊（1泊2日）
	10月	都立大学体験入学（南大沢） 2学年生徒全員対象
	日程未定	地学巡検（大島） 2学年地学選択生徒対象（1泊2日）
	日程未定	地学巡検（長瀬） 2学年地学選択生徒対象 1日（日帰り）
3学期	12月	大学教員による連続授業（校内） 6講座 全学年生徒対象（希望者）・第2学区の都立高校生にも参加を呼びかける
	3月	大学教員による連続授業（校内） 3講座 全学年生徒対象（希望者） ・第2学区の都立高校生にも参加を呼びかける

*大学教員による連続授業

各学期末考査後の期間を有効に活用して、各教科、学年行事などに関連した分野の研究者を招き授業を実施する。

あらかじめ、本校教諭と授業者が授業内容について十分な打ち合わせをし、高校生向けの資料等を作成する。さらに事後の指導として、レポート作成を課し教科学習に生かす。

*地理巡検・理科実習の実施

1年生を対象に沼津での地理巡検を行う。2年生では葉山・大島・長瀬などで理科実習を行う。都立大学大学院生チューターのサポートを得て、きめ細かな学習指導にあたる。

*都立大学の体験学習

毎年、10月頃に2年生を対象に都立大学において1日体験入学を行う。

*都立大学オープンクラス：物理，化学，生物，地学，地理

夏季休業中に都立大学で行われる高校生向けの講座を受講し、さらに、事後の指導として、レポート作成を課し教科学習、進路決定に生かす。

(2) 都立大学体験学習

骨太の進路指導には何が必要か。生徒みずからが見つけた「興味と関心」の延長線上に、進路の方向を定めるには多くの不足がある。予備校等が出す、あまり



大学の先生による授業風景

大学の先生による連続授業

	授業日時	授業テーマ	講師名	場所	ポイント
1	6月17日(月) 15:30~16:00	学ぶということ 原子・分子の姿を通して	東京都立大学附属高等学校 校長 生田 茂	本校視聴覚室 6年制委員会	3
2	7月10日(水) 14:00~16:00	介護福祉を 学ぼうとする人たちへ	大妻女子大学人間関係学部 人間福祉学科介護福祉学専攻 助教授 是枝祥子	大妻女子大学 多摩校	3
		高齢や障害で日常生活が困難になった方々へ、「あたりまえの人間」として生活していけるようにするためには、どのような援助が必要かを把握し、必要な援助を組み立てて実践できるようにするのが「介護」です。基本は、人間を理解することです。今回、は車椅子体験を通して、介護される側と介護する側の気持ちを感じていただきます。			
3	7月15日(月) 13:00~15:00	ものに色をつける という仕事	金沢美術工芸大学非常勤講師 工業デザイナー 小倉ひろみ	本校視聴覚室	3
		この携帯の色、うちのプリンター本体の色はどのように決められたのかな？工業デザイン専攻の私が、「商品色彩プランナー」に至った経緯を話しながら、商品、主に工業製品の色彩が決まるまでのメーカーとのやりとり（これが私の仕事です）の紹介をします。 また、ふだん何気なく眺めている川に架かる「橋」の色を事例に、公共物の場合の色についても、商品色彩と比較しながら触れてみたいと思います。 授業では、皆さんに「色の世界の体験」をしていただきます。 1. 商品色彩プランナーとは / 2. メーカーの企画と製品デザイン / 3. 色材と製造条件 / 4. 購買者の心理 / 5. 人が色を見分ける仕組み			
4	7月16日(火) 13:00~15:00	牛は狂っていない 牛海綿状脳症をめぐって	東京農業大学農学部畜産学科 家畜衛生学研究室 助教授 渡邊忠夫	本校地学室	3
		英国で発生し、欧州各国で多大の被害を認められた牛海綿状脳症（狂牛病）が我が国でも確認されました。本症は、人への感染も確認されているので大きく報道され、牛肉が食卓から消えるなどの影響が出ました。 本症の病原体であるプリオンは熱に強く（沸騰水中では死滅しない）、潜伏期間が非常に長く、さらに現在では生前診断が不可能なことから、この疾病に対する混乱が起きているので、現在までの概要について説明します。			
5	7月18日(木) 13:00~15:00	電子ネットワークと 若者の人間関係	大妻女子大学社会情報学部 生活情報学専攻 講師 池田緑	本校地学室	3
		インターネットに代表される電子ネットワークは、社会における人の結びつき方（＝人間関係）を大きく変えています。 電子ネットワークが普及するにつれて重要になるのは、誰が、いつ、何のために、どのように使うかということです。 この授業では、まず有効に使っている人の例を考えて有効に使うためには条件が必要なのかを考えてみたいと思います。また、その中で、たとえば「若者」「大人」「性別」といったような様々な社会での区別や考え方も、すでに1種類のものではなく、多様なものになっていることがわかるでしょう。			
6	7月18日(木) 13:00~15:00	会社のもうけを科学する （別紙にて連絡）	成城大学経済学部経営学科 海保英孝	体育館会議室	3
7	7月23日(火) 13:00~16:00	昆虫採集 （別紙にて連絡）	東京都立大学自然史科学講座 助教授 小林幸正	都立大学牧野標本館	6

《大学授業体験（90分）の講義一覧》と受講人数

☆印は附属高校のための特別講義。

号	区分	講座名	担当教官	教室	定員	受講数	引率者
1	人文学部	教育心理学演習	茂木	人文134	5	5	藤井
2		米文学特殊講義	三宅	教養103	10	9+ 保護者1	堀越
3		仏文学通史	西川	人文319	2	2	後藤
4		日本文学演習4	飯田	人文614	4	4	勝俣
5		フランス語Ⅱ	吉川	教養305	5	5	清田
6		独作文	荻野	人文653	4	1	平野
7		英語Ⅰ	福島	教養203	5	5	小池
8		英語Ⅰ	植崎	教養303	5	5	佐原
9		☆ホメロス戦士団・ ポリス・天文学 ー大学で学ぶ歴史ー	前沢	人文131	30	29+ 保護者1	渡邊誠 松野下
10		☆現代社会とジェンダー	江原	教養104	70	38+ 保護者5	近藤 杉山
11	法学部	比較政治	森山	教養306	20	20	越田
12	経済学部	経済外国語講読（英）	岩間	教養202	15	11	青木
13	理学部	化学コロキウムⅡ	上方	理学302	5	2	北島
14		化学専門実験Ⅱ	鈴木	理学303	6	6	木内
15		応用数学概説Ⅱa	佐々井	教養101	10	5	杉本
16		応用数学概説Ⅱb	山下	教養105	5	1	本橋
17		応用数学概説Ⅱc	倉田	教養220	5	保護者1	野田
18		解析学D	高井	理工101	5	4	松永
19		保健体育理論	森	教養240	15	15	寺林
20		☆力学 （衝突現象を考える）	宮原	理工103	50	19	池田
21		☆植物分類学入門 ー植物の多様性を探るー	若林	理工201	50	19+ 保護者1	宮原
22		☆自然地理学 ー氷河と地球環境ー	岩田	理工301	40	17+ 保護者2	山崎 渡辺
23	工学部	画像処理	井越	理工105	20	20	石川
24		電気電子材料	須原	理工206	10	3	新井正
25		物理有機化学	井上	教養204	10	2	和田

にも多くの情報に振り回されている現状。毎日の生活・学習の中から「発見」のダイナミズムが消えていく現状。受験さえ突破すれば良く、突破するための受験テクニックを効率よくマスターすることが、高校での学習の唯一最大の目標となっている現状。この現状を変えるには何が必要か、個別の高等学校で何ができるか、附属高校で何処までできるか。これらの問いに関する答えの1つが、都立大学体験学習である。

この企画は、平成3年（1991年）から始まり、毎年新しい企画とともに発展してきた。最初は理学部・工学部の見学会からスタートしている。都立大学が目黒に校舎があった時代、両学部の推薦入試に生徒みずからの意志で積極的に取り組んでもらうことを第一の課題としていた。さらに、都立大学推薦受験生だけでなく、理学部・工学部への進路を考えている生徒も参加して、大学の教育・施設を知るこ

とも課題とした。自主的参加が原則であった。

大学の移転後はこの企画を全学部ひろげ、高校2年生全員が、大学で一日授業を受けることで、「大学とはどんなところで、何ができそうか」を問うものにならなくなっていった。大学見学会とは異なり、「体験」学習する機会を作ることである。「体験学習」の内容は、進路問題に関するものだった。高校生用にアレンジされた講義が用意されることが多いが、毎年特色を出す企画が作られている。1998年からは、大学の日頃の授業に参加する企画が続いている。これは、大学生と肩を並べることで得られるちょっとした大人びた気分と緊張感を得ることで、大学を身近に捉えたとともに、目的を持って挑戦する対象に据えることに繋がっている。

3. おわりに

平成3年3月、都立大学が八王子市南大沢へ全面移転してから、11年の歳月が流れた。現在、大学跡地には、目黒区の中央図書館をはじめ、コンサートホールが完成している。この間、都立大学附属高校は、大学との連携を図りながら特色ある学校づくりを推進してきた。平成18年度には、ここに中高一貫の学校が開校することになっている。今後とも、大学との連携は、続けていってほしい行事の1つである。

これらの学校紹介は、次の資料を引用・参考にして

・都立大学教授連続授業の成果と今後への展望

編集 都立大学附属高等学校 基本問題検討委員会

I・C推進事業 報告書 1997.6.2発行

・1998年度都立大学体験学習の記録

編集 都立大学附属高等学校 進路指導部・第二学年
進路充実事業費 報告書 1998.11.30発行

・2002年度連続授業 年間計画

編集 都立大学附属高等学校 六年制委員会

（文責 東京都立附属高等学校教諭 越智景三）